



Sun N1 System Manager 1.3 イン ストールおよび構成ガイド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6480-10
2006年7月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、N1、Sun Fire、JDK、Netra、および Sun Enterprise Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7桁/5桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.3 Installation and Configuration Guide

Part No: 819-5135-10

目次

はじめに	7
1 Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストールと設定	11
N1 System Manager のインストールの前提条件	11
▼ Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする	12
Sun N1 System Manager 1.3 ソフトウェアのインストール	13
▼ N1 System Manager ソフトウェアをインストールする	14
N1 System Manager の設定	17
▼ N1 System Manager を設定する	18
SSH のホストキーが不明だったか、変更されていた場合のポリシーの設定	31
▼ SSH ポリシーを変更する	31
2 本稼働の準備	33
セキュリティの考慮事項	33
パフォーマンスのガイドライン	34
N1 System Manager のパフォーマンスチューニング	34
▼ N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる	34
管理サーバーのリホスティング	36
サーバー再起動時の N1 System Manager の起動の無効化	36
▼ サーバー再起動時の N1 System Manager の起動を無効にする	37
オペレーティングシステムのファイルの設定の変更	37
▼ Solaris オペレーティングシステムのファイルの設定をリホスティングに合わせて変更する	37
▼ Linux オペレーティングシステムのファイルの設定をリホスティングに合わせて変更する	38
管理サーバーの設定の変更	39
▼ 管理サーバーの設定をリホスティングに合わせて変更する	39

3 Sun N1 System Manager ソフトウェアのアップグレード	41
Sun N1 System Manager 1.3 へのアップグレード	41
▼ Sun N1 System Manager ソフトウェアをアップグレードする	42
N1 System Manager version 1.2 の n1gc アカウントの削除	44
Grid Engine で使用するための管理対象サーバーのアップデート	44
4 Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール	47
Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール	47
▼ N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする	47
A Sun N1 System Manager のプロトコル、ポート、および機能のリファレンス	49
索引	67

表目次

表 1-1	N1 System Manager の停止と起動	17
表 A-1	管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス	49
表 A-2	管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス	60

はじめに

『Sun N1 System Manager 1.3 インストールおよび構成ガイド』では、システムの管理サーバーへの Sun N1™ System Manager ソフトウェアのインストールおよび構成に関する要件を説明します。

対象読者

このマニュアルは、N1 System Manager のソフトウェアとハードウェアのインストールを行うシステム管理者を対象としています。システム管理者は、次の分野の知識と経験が必要です。

- Solaris™、Linux、および Microsoft Windows の各オペレーティングシステム、および各オペレーティングシステムに付属するネットワーク管理ツール
- DNS、DHCP、IP アドレス指定、サブネットワーク、VLAN、SNMP、TFTP、NFS、Microsoft リモートインストールサービス (RIS)、およびメールサービス

マニュアルの構成

- 第 1 章では、N1 System Manager をインストール、設定、および調整する方法を示します。
- 第 2 章では、管理サーバーではじめて N1 System Manager を調整するときのガイドラインと手順を示します。
- 第 3 章では、N1 System Manager 1.2 の既存のインストールを N1 System Manager 1.3 にアップグレードする方法を示します。
- 第 4 章では、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする方法を示します。
- 付録 A では、N1 System Manager の管理サーバーと管理対象サーバーで使用されるプロトコル、ポート、および機能を相互参照できます。

関連マニュアル

このマニュアルは、9部ある実装関連のマニュアルセットの一部です。マニュアルは、次の順序でお読みください。

- 『Sun N1 System Manager 1.3 ご使用にあたって』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 インストールおよび構成ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 Grid Engine プロビジョニングおよび監視マニュアル』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 Troubleshooting Guide』

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、Cシェル、Bourneシェル、およびKornシェルのデフォルトのUNIX®システムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
Cシェル	<code>machine_name%</code>
Cシェルのスーパーユーザー	<code>machine_name#</code>
BourneシェルおよびKornシェル	<code>\$</code>
BourneシェルおよびKornシェルのスーパーユーザー	<code>#</code>

◆ ◆ ◆ 第 1 章

Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストールと設定

この章では、管理サーバーでの Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストールと設定の手順を示します。N1 System Manager の旧バージョンが管理サーバーにインストールされている場合は、第 3 章の説明に従って N1 System Manager をアップグレードします。

N1 System Manager の設定プロセスは、いつでも実行して N1 System Manager の設定を変更できます。たとえば、SSH 処理のホストキーが不明であるか、変更されていた場合の処理方法を変更するには、設定プロセスを実行できます。また、RIS サーバーを追加した場合は、設定プロセスを実行して、Windows オペレーティングシステムをプロビジョニングできるように N1 System Manager を設定できます。

この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「N1 System Manager のインストールの前提条件」
- 13 ページの「Sun N1 System Manager 1.3 ソフトウェアのインストール」
- 17 ページの「N1 System Manager の設定」
- 31 ページの「SSH のホストキーが不明だったか、変更されていた場合のポリシーの設定」

注 - このマニュアルでは、N1 System Manager で検出されていないサーバーで、以降も N1 System Manager によって監視または管理されない任意のサーバーを「管理可能なサーバー」と呼びます。N1 System Manager で検出され、N1 System Manager で監視および管理されているサーバーは「管理対象サーバー」と呼びます。

N1 System Manager のインストールの前提条件

N1 System Manager ソフトウェアをインストールするには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- 『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』の第 2 章「Sun N1 System Manager システムとネットワークの準備」の説明に従って、ハードウェアが接続、構成されている。

- 『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』の第3章「管理サーバーへの OS のインストールと設定」の説明に従って、管理サーバーのハードウェアの種類に適切な OS のバージョンが N1 System Manager の管理サーバーにインストールされている。
- 管理対象サーバーに Windows をプロビジョニングする場合は、N1 System Manager をインストールし、設定する前に、Microsoft リモートインストールサービス (RIS) サーバーをインストールし、設定する必要があります。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』の「Windows Remote Installation Service サーバーの設定」を参照してください。

N1 System Manager のインストールと設定を完了してから RIS サーバーをインストールする場合は、17 ページの「N1 System Manager の設定」の説明に従って N1 System Manager の設定プロセスを実行することで、RIS サーバーを N1 System Manager ネットワークに追加できます。

Sun N1 System Manager のインストールには、次の2つの方法があります。

- 管理サーバーとして選択したサーバーに DVD ドライブがある場合は、14 ページの「N1 System Manager ソフトウェアをインストールする」に従って、インストール DVD-ROM から Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールできます。
- 管理サーバーとして選択したサーバーに DVD ドライブがない場合は、12 ページの「Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする」に従って、N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロード、展開、およびマウントする必要があります。

▼ Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする

1 管理サーバーに **root** でログインします。

2 (省略可能) **Sun Download Manager** をダウンロードし、インストールします。

Web ブラウザを使用してサイズの大きなファイルをダウンロードすると、失敗することがあります。このため、N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードするときは、Sun Download Manager を使用してください。Sun Download Manager のダウンロードおよびインストールの方法については、

は、<http://www.sun.com/download/sdm/index.xml> を参照してください。

3 **N1 System Manager** のインストール ISO イメージを管理サーバーにダウンロードし、展開します。

ダウンロード元については、N1 System Manager eFulfillment のマニュアルと電子メールを参照してください。管理サーバーにインストールしたオペレーティングシステム用の ISO イメージをダウンロードします。

- n1sm-1.3-ga-linux-x86-iso.zip
- n1sm-1.3-ga-solaris-x86-iso.zip

- n1sm-1.3-ga-solaris-sparc-iso.zip

4 N1 System Manager のインストール ISO イメージの zip ファイルを展開します。

「`unzip ISO-image-name.zip`」と入力します。ここで *ISO-image-name* は、ダウンロードした N1 System Manager のインストール ISO イメージの zip ファイルの名前です。

5 管理サーバー上で、インストール ISO イメージのマウントポイントになるディレクトリを作成し、ISO イメージをマウントします。

N1 System Manager のインストール ISO イメージを管理サーバーのルートディレクトリに `n1sm-install.iso` という名前で保存し、ISO イメージをマウントポイントのディレクトリ `/n1sminstall` にマウントするとします。マウントポイントになるディレクトリを作成し、ISO イメージをマウントするには、次のように入力します。

- Solaris の場合

```
# mkdir /n1sminstall
# lofiadm -a /n1sm-install.iso
/dev/lofi/1
# mount -F hsfs -o ro /dev/lofi/1 /n1sminstall/
```

管理サーバーに別の `lofi` デバイスがインストールされている場合は、`lofiadm -a /n1sm-install.iso` コマンドを実行すると、たとえば `/dev/lofi/2` などの別の `lofi` デバイスが表示されます。`mount -F` では、`lofiadmin -a` コマンドで表示された名前を使用してください。

- Linux の場合

```
# mkdir /n1sminstall
# mount -o loop,ro /n1sm-install.iso /n1sminstall
```

次の手順 次の節で示す手順で Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールします。

Sun N1 System Manager 1.3 ソフトウェアのインストール

ここでは、管理サーバーに、はじめて N1 System Manager 1.3 ソフトウェアをインストールする手順を説明します。

- 管理サーバーに N1 System Manager 1.2 がインストールされている場合は、第 3 章の説明に従って、管理サーバーを version 1.3 にアップグレードします。
- 管理サーバーに N1 System Manager 1.1 がインストールされている場合は、まず N1 System Manager 1.2 にアップグレードしてから、version 1.3 にアップグレードします。

N1 System Manager ソフトウェアのインストールプロセスはネットワーク構成によって異なり、最大で 2 時間かかる場合があります。



注意 - 管理サーバーは N1 System Manager ソフトウェア専用にします。管理サーバーにはほかのアプリケーションをインストールしないでください。

▼ N1 System Manager ソフトウェアをインストールする

1 N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。

2 N1 System Manager のソースがあるディレクトリに移動します。

N1 System Manager の DVD からインストールする場合は、次のディレクトリに移動します。

- Solaris SPARC ベースの管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_sparc/Product/installer
```

- Solaris x86 ベースの管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_x86/Product/installer
```

- Linux x86 ベースの管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Linux_x86/Product/installer
```

N1 System Manager のインストール ISO イメージからインストールする場合は、パス名の /cdrom を、マウントポイントのディレクトリ名に置き換えます。

3 「./install」 と入力してインストールプロセスを起動します。

ソフトウェア評価規約が表示されます。

4 規約に同意してインストールを継続するかどうかを選択します。

規約をよく読みます。インストールを継続するには「y」を、インストールを中止するには「n」を入力します。

インストールを継続すると、インストールスクリプトによって必要な Perl モジュールが確認されます。このプロセスが完了すると、N1SM インストーラプロセスによって、以前のバージョンである N1 System Manager 1.2 が管理サーバーにインストールされているかどうかを確認されます。

注-version 1.2がインストールされている場合は、次のようなメッセージが表示され、インストールプロセスは終了します。

```
Version 1.2 is already installed
Invoke installer with -u option to upgrade
```

上記のメッセージが表示された場合は、第3章の説明に従って管理サーバーをアップグレードします。

次に示すように、N1SM インストーラのメニューと、N1SM インストーラによってインストールされるコンポーネントの表示内容は、管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

- Solaris 10 の管理サーバー

N1SM Installer (version 1.3 on SunOS)

- | | |
|---|-----------------|
| 1. Install OS packages. | [Not Completed] |
| 2. Install Expect. | [Not Completed] |
| 3. Install IPMI tool. | [Not Completed] |
| 4. Install JDK 1.5. | [Not Completed] |
| 5. Install service provisioning components. | [Not Completed] |
| 6. Install OS provisioning components. | [Not Completed] |
| 7. Copy DHCP configuration file. | [Not Completed] |
| 8. Install user interface components. | [Not Completed] |
| 9. Install service container components. | [Not Completed] |
| 10. Install N1 System Manager. | [Not Completed] |

Non-interactive install in progress

Executing current step: Install OS packages...

- Linux の管理サーバー

N1SM Installer (version 1.3 on Linux)

- | | |
|--|-----------------|
| 1. Check that required RPM packages are present. | [Not Completed] |
| 2. Install IPMI tool. | [Not Completed] |
| 3. Install JDK 1.5. | [Not Completed] |
| 4. Install Python. | [Not Completed] |
| 5. Install service provisioning components. | [Not Completed] |
| 6. Install OS provisioning components. | [Not Completed] |
| 7. Copy DHCP configuration file. | [Not Completed] |
| 8. Install user interface components. | [Not Completed] |
| 9. Install service container components. | [Not Completed] |
| 10. Install N1 System Manager. | [Not Completed] |

Non-interactive install in progress.

インストールプロセスによって各処理が順番に実行されます。各処理が完了すると、処理の状態が「Completed」に更新されます。

処理に失敗したら、通知が表示され、状態が「Not Completed」のままか、「Partially Run」に変更されます。インストールプロセスを終了し、ログファイル /var/tmp/installer.log.latest で問題の原因を調べてください。問題が解決したら、インストールプロセスを再び実行します。

インストールプロセスが完了すると、設定ユーティリティーの実行を求めるメッセージが表示されます。

N1SM installation is complete

Run the n1smconfig utility to configure N1SM.

- 管理サーバーに Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 3.0 AS Update 2、Update 3、または Update 4 をインストールし、RHEL 3.0 AS Update 2、Update 3、または Update 4 以外の RPM をインストールしている場合は、インストールの手順 1 が完了したあとに、N1 System Manager で RPM が機能しない可能性があるという警告が表示される場合があります。該当する RPM の一覧に続いて、検出された RPM の一覧が表示されます。このメッセージは単なる警告なので、c キーを押すとインストールを続行できます。このオプションは、インストールが失敗した場合に現在使用可能なオプション(再試行する場合は t、終了する場合は x)に追加されたものです。
- Red Hat Enterprise Linux AS Update 3 以降をインストールしている場合は、サービスコンテナのコンポーネントのインストールが完了したあとに、次のメッセージが表示される場合があります。

This installer has determined that some rpms currently installed on this system have later versions than those currently required by N1SM. If you encounter any problems related to these substitutions, you might need to obtain and install the exact version of the software required by the installer before re-installing N1SM.

- Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 Update 1 をインストールし、インストール時に SELinux を無効にしなかった場合は、次のメッセージが表示されます。

Failed Step: Install OS provisioning components.

The following is a portion of the installer log which may indicate the cause of the error.

If this does not indicate the cause of the error, you will need to view the full log file. More information on how to do that is available below.

WARNING: This version of N1 System Manager does not support SELinux fully enabled.

If SELinux is enabled, disable it by exiting the installer and performing these steps:


```

1) At the Operating System prompt, type 'setenforce 0'
2) Edit the file /etc/selinux/config and set 'SELINUX=disabled'
Then restart the N1 System Manager installer.
*****
Please fix the problem and then try this step again.
For a full log of the failed install see the file: /var/tmp/installer.log.14427.

t. Try this step again (correct the failure before proceeding)
x. Exit
Enter selection: (t/x)

```

画面の指示に従って SELinux を無効にします。

次の手順 次の節、17 ページの「N1 System Manager の設定」に従って N1 System Manager システムを設定します。

N1 System Manager の設定

ここでは、N1 System Manager の停止と起動の手順、および N1 System Manager システムを設定する手順を示します。

初期設定は `n1smconfig` コマンドを実行して行います。N1 System Manager の設定は、たとえば N1 System Manager の本稼働環境にあとで RIS サーバーを追加した場合などに、`n1smconfig` コマンドを実行していつでも変更できます。

N1 System Manager をすでにインストールし、設定してある場合は、再び `n1smconfig` を実行して変更内容を確定すると、ほとんどの場合に N1 System Manager が停止してから再起動します。影響を最小限に抑えるには、設定を変更する予定を立て、N1 System Manager を停止してから `n1smconfig` を実行します。次の表に、N1 System Manager を起動および停止するコマンドを示します。

表 1-1 N1 System Manager の停止と起動

N1 System Manager の起動:

Solaris の管理サーバーでは、「`svcadm enable n1sm`」と入力します。

Linux の管理サーバーでは、「`/etc/init.d/n1sm init start`」と入力します。

N1 System Manager の停止:

Solaris の管理サーバーでは、「`svcadm disable n1sm`」と入力します。

Linux の管理サーバーでは、「`/etc/init.d/n1sm init stop`」と入力します。

▼ N1 System Manager を設定する

始める前に 13 ページの「Sun N1 System Manager 1.3 ソフトウェアのインストール」の説明に従って N1 System Manager ソフトウェアが正しくインストールされているか、第 3 章の説明に従って正しくアップグレードされている必要があります。

注-少なくとも、プロビジョニングネットワークまたは管理ネットワークを管理サーバーに接続しておいてください。ネットワーク構成で管理サーバーを管理ネットワークのみ、またはプロビジョニングネットワークのみに接続している場合は、N1 System Manager の機能が制限されます。N1 System Manager には、動作の制限モード用に、特定の権限が割り当てられたデフォルトのセキュリティロールが 2 つあります。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「ロールの管理」および『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「制限モードの機能」を参照してください。

- 1 N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。
- 2 N1 System Manager の設定を変更する場合は、N1 System Manager を停止します。
 - Solaris の管理サーバーでは、「**svcadm disable n1sm**」と入力します。
 - Linux の管理サーバーでは、「**/etc/init.d/n1sm init stop**」と入力します。

- 3 「**n1smconfig**」と入力して設定プロセスを起動します。
 - **n1smconfig** をはじめて実行している場合は、N1 System Manager の現在の設定に続いて、プロビジョニングネットワークの説明、および検出されたネットワークインタフェースの一覧が表示されます。
 - **n1smconfig** を再実行している場合は、変更できる設定だけが表示されます。

継続するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。「**y**」を入力して操作を続けます。

- **n1smconfig** をはじめて実行している場合は、プロビジョニングネットワークで使用するインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されます。
- **n1smconfig** を再実行している場合は、プロビジョニングインタフェースの変更時にのみ DHCP 範囲を変更できることを通知するメッセージが表示されます。プロビジョニングネットワークに使用するインタフェースまたは DHCP 範囲を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。「**y**」を入力して操作を続けます。

プロビジョニングネットワークで使用するインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されます。

- 4 プロビジョニングネットワークで使用するインタフェースを指定します。
 - プロビジョニングネットワークがない場合は、「**none**」と入力します。
プロビジョニングネットワークがない場合、N1 System Manager は制限モードで動作します。

管理ネットワークの説明に続いて、検出されたネットワークインタフェースの一覧が表示されます。管理ネットワークで使用するインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されます。**手順 6**に進んでください。

- プロビジョニングネットワークがある場合はインタフェース名を入力します。インタフェース名は、eth1、hme0、bge1など、マシンのアーキテクチャーとインストールされている OS によって異なります。

DHCP サーバーに使用する IP アドレスの範囲を指定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

5 DHCP サーバーのアドレス範囲を設定するかどうかを選択します。

- DHCP の IP アドレス範囲を設定すると、設定する IP アドレスの範囲が管理可能なサーバーに割り当てられ、プロビジョニングネットワークを経由したオペレーティングシステムやアップデートのロードに使用されます。
- DHCP の IP アドレス範囲を設定しなかった場合は、N1 System Manager で OS プロファイルの load 操作を使用するときに静的アドレスを指定する必要があります。

注-管理サーバーは、プロビジョニングネットワーク用の DHCP サービスだけを提供しません。管理サーバーは、データネットワーク用の DHCP サービスを提供しません。データネットワークの IP サービスを動的に設定する場合は、データネットワーク用の外部 DHCP サーバーを用意する必要があります。プロビジョニングネットワークに別の DHCP サーバーを設置することはできません。

- IP アドレスの範囲を指定しない場合は、「n」を入力します。

検出されたネットワークインタフェースに続いて、管理ネットワークの説明が表示されます。管理ネットワークのインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されず。**手順 6**に進んでください。

- プロビジョニングネットワークで DHCP サーバーに使用する IP アドレスを指定する場合は、「y」を入力します。



注意-

- 管理ネットワークのポートアドレスが、プロビジョニングネットワークと同じサブネットにある場合は、管理サーバーの IP アドレスが、DHCP のアドレス範囲に指定する IP アドレス範囲内に含まれないことを確認します。この規則によって、DHCP サーバーは、DHCP クライアントの条件を使用して解決しないクライアントに対し、重複する IP アドレスを割り当てないようにします。
- 管理サーバーの IP アドレスを含まない IP 範囲を指定します。管理サーバーの IP アドレスが、検出に使用するアドレス範囲内にあると、検出プロセスで管理サーバーが検出され、管理サーバーが再起動されます。

DHCP の開始 IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。DHCP サーバーが使う開始 IP アドレスを入力します。

DHCP の終了 IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。DHCP サーバーが使う終了 IP アドレスを入力します。

DNS ネームサーバーと検索リストのエントリの設定を求めるメッセージが表示されず。手順 6 に進んでください。

6 管理ネットワークで使用するインタフェースを指定します。

- 管理ネットワークがない場合は、「none」と入力します。
管理ネットワークがない場合、N1 System Manager は制限モードで動作します。
- 管理ネットワークがある場合は、インタフェース名を入力します。

DNS ネームサーバーと検索リストのエントリの設定を求めるメッセージが表示されず。

7 ネームサーバーを設定するかどうかを選択します。

- ネームサーバーとドメイン検索リストを設定する場合は、「y」を入力します。ネームサーバーのアドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。手順 8 に進んでください。
- 表示されるネームサーバーとドメイン検索リストを使う場合は、「n」を入力します。SMTP サーバーでイベント通知を設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 10 に進んでください。

8 ネームサーバーを設定します。

ネームサーバーの IP アドレスを半角スペースで区切って入力します。次に例を示します。

129.111.111.11 129.111.111.22

検索ドメインサフィックスリストの入力を求めるメッセージが表示されます。

9 検索ドメインを指定します。

DNS の検索に使うドメインの名前を半角スペースで区切って入力します。次に例を示します。

location-one.company.com location-two.company.com location-three.company.com

SMTP サーバーでイベント通知を設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

10 SMTP でイベント通知を設定するかどうかを選択します。

N1 System Manager で ALOM ベースの管理対象サーバーからイベント通知を受け取るには、SMTP を設定する必要があります。どの管理可能なサーバーで ALOM ベースを使用しているかを判別する方法については、『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』の「管理可能なサーバーの要件」を参照してください。

- SMTP サーバーを設定する場合は、「y」を入力します。SMTP サーバーの名前または IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。手順 11 に進んでください。

- SMTP サーバーを設定しない場合は、「n」を入力します。ログの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 12 に進んでください。

11 SMTP サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

SMTP サーバーの完全修飾名または IP アドレスを入力します。次に例を示します。

smtp.mycompany.com

または

129.111.222.33

イベントログの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

12 イベントログの設定を変更します。

- ログを設定する場合は「y」を入力します。ログの設定に関する情報が表示されます。手順 13 に進んでください。
- ログを設定しない場合は「n」を入力します。OS の配備、およびジョブのタイムアウトの設定に関する情報が表示されます。ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 16 に進んでください。

13 ログを設定します。

Return キーを押してデフォルトの「ALL」を使用するか、指定内容を入力します。イベントログの重要度の値の入力を求めるメッセージが表示されます。

14 イベントログの重要度を指定します。

次のいずれかの操作を行います。

- イベントログの重要度の指定を終了するには、「q」を入力します。イベントログの重要度は設定されません。ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 16 に進んでください。
- Return キーを押してデフォルト値 0 を使用するか、次のいずれかのイベント重要度に対応する番号を入力します。
 - 0 = 不明
 - 1 = その他
 - 2 = 情報
 - 3 = 警告
 - 4 = マイナー
 - 5 = メジャー
 - 6 = 重大
 - 7 = 致命的

設定プロセスでログエントリの保持に関する情報が表示されます。イベントログのエントリを保持する日数の指定を求めるメッセージが表示されます。

15 イベントログのエントリを保持する日数を指定します。

Return キーを押してデフォルト値の 365 日を使用するか、イベントログのエントリを保持する日数を入力します。

OS の配備、およびジョブのタイムアウトの設定に関する情報が表示されます。ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

16 ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを選択します。

一部の OS ディストリビューションは非常に大きく、サーバーのプロビジョニングを行うときにデフォルトで設定されている時間よりも長い時間を要する場合があります。大きな OS ディストリビューションのプロビジョニングを行う場合は、タイムアウト値を延長します。

- ジョブのタイムアウトの設定を変更する場合は、「y」を入力します。
ジョブおよびステップタイムアウト値の説明が表示されます。別のタイムアウト値を入力します。
- タイムアウトの設定を変更しない場合は、「n」を入力します。

サーバー起動時に N1 System Manager (N1SM) を起動するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

17 サーバー起動時に N1 System Manager システムを起動するかどうかを選択します。

- サーバー起動時に N1 System Manager システムを起動するには、「y」を入力します。
- 管理サーバーの再起動後に N1 System Manager を手動で起動する場合は、「n」を入力します。N1 System Manager を手動で起動できることを通知するメッセージが表示されます。

管理対象サーバーで、自動ログイン機能がある ILOM Web GUI への自動ログインを有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

18 管理対象サーバーの ILOM GUI 自動ログイン機能を有効にするかどうかを選択します。

Sun Fire™ X4100 サーバーと Sun Fire X4200 サーバーには、遠隔デバイスへの接続やシステム監視の実行などのさまざまなシステム管理作業を行うための Web GUI が用意されています。

- ILOM GUI の自動ログイン機能を有効にした場合は、N1 System Manager のブラウザインタフェースで管理対象サーバーの「Web Console を開く」リンクをクリックすると、Sun Fire X4100 または X4200 の Web GUI に自動的にログインします。
- 自動ログイン機能を有効にしない場合は、「Web Console を開く」のリンクをクリックしたときにパスワードの入力が求められます。詳細は、N1 System Manager のインストール後またはアップグレード後に N1 System Manager のオンラインヘルプの「Sun Fire X4000 シリーズサーバーの Sun ILOM Web GUI を開く」を参照してください。



注意 - Sun Fire X4100 および X4200 の管理対象サーバーの Web Console (Sun ILOM Web GUI) 自動ログイン機能を有効にすると、管理ネットワークログインページ上で ILOM の Web ページソースを表示できるユーザーから、サーバーのサービスプロセッサの資格情報が見える状態になります。

- 自動ログイン機能を有効にする場合は、「y」を入力します。
- 自動ログイン機能を有効にしない場合は、「n」を入力します。
ホストキーが変更されていたか、不明だった場合の SSH ポリシーを変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

19 SSH ポリシーを変更するかどうかを選択します。

注 - 変更された、または不明なホストキーを SSH 処理で許容すると、N1 System Manager がセキュリティ上のリスクにさらされる可能性があります、正常に終了する N1 System Manager の処理が多くなります。

- SSH ポリシーを変更しない場合は、「n」を入力します。

注 - SSH ポリシーは、初期設定後にいつでも変更できます (31 ページの「SSH のホストキーが不明だったか、変更されていた場合のポリシーの設定」を参照)。

ホストキーが変更されていたか、不明だった場合は次の SSH ポリシーが適用されます。

- 管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容する: yes
- プラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容する: yes
- 管理 IP アドレスの不明なホストキーを許容する: yes
- プラットフォーム IP アドレスの不明なホストキーを許容する: yes

n1smconfig をはじめて実行している場合は、ALOM ベースの管理可能なサーバーのメール警告に関する情報が表示されます。N1 System Manager の設定を変更している場合は、現在の ALOM 電子メール警告の設定が表示されます。手順 21 に進んでください。

- SSH ポリシーを変更する場合は、「y」を入力します。
管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。
- a. SSH 処理で管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容するかどうかを選択します。
 - N1 System Manager で、管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容しない場合は、「n」を入力します。
 - 管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容する場合は、「y」を入力します。

プラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

- b. **SSH 処理でプラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容するかどうかを選択します。**

- N1 System Manager で、プラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容しない場合は、「n」を入力します。
- プラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容する場合は、「y」を入力します。

管理 IP アドレスの不明なホストキーを許容するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

- c. **SSH 処理で管理 IP アドレスの不明なホストキーを許容するかどうかを選択します。**

- N1 System Manager で、管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容しない場合は、「n」を入力します。
- 管理 IP アドレスの変更されたホストキーを許容する場合は、「y」を入力します。

プラットフォーム IP アドレスの不明なホストキーを許容するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

- d. **SSH 処理でプラットフォーム IP アドレスの不明なホストキーを許容するかどうかを選択します。**

- N1 System Manager で、プラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容しない場合は、「n」を入力します。
- プラットフォーム IP アドレスの変更されたホストキーを許容する場合は、「y」を入力します。

次の手順は、管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

- Solaris ベースの管理サーバーを設定している場合は、管理対象サーバーのシリアルコンソールにアクセスできるように SSHv1 プロトコルを有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 20 に進んでください。
- Linux ベースの管理サーバーを設定している場合は、ALOM ベースの管理可能なサーバーのメール警告に関する情報が表示されます。N1 System Manager の設定を変更している場合は、現在の ALOM 電子メール警告の設定が表示されます。手順 21 に進んでください。

- 20 Solaris ベースの管理サーバーで SSHv1 プロトコルを有効にするかどうかを選択します。**

SSHv1 は、Solaris ベースの N1 System Manager ブラウザインタフェースから管理対象サーバーのシリアルコンソールへのリモートアクセスを行うときに必要です。詳細は、N1 System Manager のインストール後またはアップグレード後に N1 System Manager のオンラインヘルプの「サーバーのシリアルコンソールを開く」を参照してください。



注意 - SSHv1 については、セキュリティーに関連する次の問題を考慮する必要があります。

- ブラウザインタフェースからシリアルコンソールへのアクセスで 사용되는アプレットには、証明書に基づく認証機能がありません。このアプレットでは、管理サーバーへの通信でのみ SSHv1 が使用され、また SSHv1 を使用するには、管理サーバーで SSHv1 が有効になっている必要があります。この問題が心配な場合は、コマンド行から `connect` コマンドを実行することでシリアルコンソール機能を使用できます。
- 管理サーバーから管理対象サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースへの接続中に使用される SSH フィンガープリントは、N1 System Manager ソフトウェアによって自動的に確認されます。このため、管理対象サーバーは中間者攻撃を受けやすくなります。

- **SSHv1** を有効にする場合は、「**y**」を入力します。
あとで SSHv1 を無効にする場合は、次の手順に従います。
 - a. **N1 System Manager** を停止します。
 - b. `/etc/ssh/sshd_config` ファイルを編集します。
 - c. 行 `Protocol 2,1` を `Protocol 2` に変更します。
 - d. 行 `HostKey /etc/ssh/ssh_host_rsa1_key` を削除します。
 - e. **N1 System Manager** を起動します。

- **SSHv1** を有効にしない場合は、「**n**」を入力します。

N1 System Manager の内部電子メールサーバーを使用して ALOM 電子メール警告を受け取るかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

`n1smconfig` をはじめて実行している場合は、ALOM ベースの管理可能なサーバーのメール警告に関する情報が表示されます。N1 System Manager の設定を変更している場合は、現在の ALOM 電子メール警告の設定が表示されます。

21 N1 System Manager の内部電子メールサーバーを使用して ALOM 電子メール警告を受け取るかどうかを選択します。

ALOM ベースの管理対象サーバーでは、電子メールを使用してハードウェア監視警告が N1 System Manager に送信されます。

N1 System Manager のセキュリティー保護された内部電子メールサーバーを使用するか、既存のメールサーバーを使用できます。内部電子メールサーバーを使用するには、ポート 25 が空いている必要があります。既存のメールサーバーを使用するには、N1 System Manager からメールサーバーにアクセスでき、また N1 System Manager で使用できるようにそのメールサーバーを設定する必要があります。

ポート 25 がプロセスに割り当てられているかどうかを判別するには、端末ウィンドウを開き、コマンド「**grep 25 /etc/services**」を入力します。ポート 25 が使用中かどうかを判別するには、コマンド「**netstat -an | grep 25**」を入力します。ポート 25 が使用中の場合は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、ポート 25 を使用しているプロセスを無効にします。

注-既存の電子メールサーバーを使用すると、N1 System Manager がサービス拒否攻撃や、電子メールを利用したその他のセキュリティ上のリスクにさらされる可能性があります。

- N1 System Manager のセキュリティ保護された内部電子メールサーバーを使用する場合は、「**y**」を入力します。

Windows RIS (リモートインストールシステム) サーバーの追加、削除、または変更を求めるメッセージが表示されます。[手順 24](#) に進んでください。

- 既存の電子メールサーバーを使用する場合は、「**n**」を入力します。
現在の外部電子メールサーバーの値が表示され、設定を変更するかどうかを問いつけるメッセージが表示されます。

22 外部電子メールサーバーの設定を変更するかどうかを選択します。

- 電子メールの設定を変更しない場合は、「**n**」を入力します。
Windows RIS (リモートインストールシステム) サーバーの追加、削除、または変更を求めるメッセージが表示されます。[手順 24](#) に進んでください。
- 表示されている電子メールの設定を変更する場合は、「**y**」を入力します。
次の手順に示すように、ALOM 電子メール警告の各設定の指定を求めるメッセージが表示されます。

23 ALOM 電子メール警告の設定を指定します。

- a. 電子メール警告を保存する電子メールのフォルダを指定します。
Enter キーまたは Return キーを押して、受信箱のデフォルトの値を受け入れるか、別の電子メールフォルダ名を入力します。

電子メール警告の IP アドレスの指定を求めるメッセージが表示されます。

- b. メールサーバーの IP アドレスを指定します。
 - 管理サーバーに電子メールサーバーをインストールし、有効にしてある場合は、管理サーバーの管理ネットワークインタフェースの IP アドレスを入力します。
 - 管理サーバーの管理ネットワークインタフェースからアクセス可能な別のマシンに電子メールサーバーをインストールし、有効にしてある場合は、電子メールサーバーをインストールしたサーバーの IP アドレスを入力します。

電子メール警告のメールアドレスの指定を求めるメッセージが表示されます。

- c. 警告の送信先の電子メールアドレスを指定します。
完全な電子メールアドレスを入力します。次に例を示します。
`n1smadmin@company.com`
電子メールアドレスのパスワードの指定を求めるメッセージが表示されます。
- d. アカウントのパスワードを指定します。
外部電子メールアドレスのパスワードを入力します。
電子メール警告プロトコルの指定を求めるメッセージが表示されます。
- e. 電子メール警告プロトコルを指定します。
管理サーバーで使用する電子メールプロトコルの名前を入力します。有効な値は、`pop3` または `imap` です。
電子メール警告のユーザー名の入力を求めるメッセージが表示されます。
- f. 電子メール警告のユーザー名を指定します。
電子メール警告に使用するアカウント名を入力します。
次に例を示します。 `n1smadmin`
指定した電子メール設定が表示され、この設定でよいかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。
- g. 設定を受け入れるかどうかを選択します。
- 設定が正しくない場合は、「**n**」を入力します。ALOM 電子メール警告の設定プロセスが再び始まり、電子メール警告のメールフォルダの指定を求めるメッセージが表示されます。
 - 設定を受け入れる場合は、「**y**」を入力します。
Windows RIS (リモートインストールシステム) サーバーを追加するか、削除するか、変更するかを指定を求めるメッセージが表示されます。

24 Windows RIS サーバーを追加するか、削除するか、変更するかを選択します。

1つ以上の管理対象サーバーに Windows オペレーティングシステムをプロビジョニングする場合は、プロビジョニングネットワークからアクセスできる別個の Windows RIS サーバーをインストールし、設定する必要があります。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』の「Windows Remote Installation Service サーバーの設定」を参照してください。

N1 System Manager のインストールと設定の終了後に RIS サーバーをインストールする場合は、再び `n1smconfig` を実行することで RIS サーバーを N1 System Manager ネットワークに追加できます。

- N1 System Manager で使用する Windows RIS サーバーを追加、削除、または変更しない場合は、「**n**」を入力します。

OS 検出を有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 26 に進んでください。

- N1 System Manager で使用する Windows RIS サーバーを追加、削除、または変更する場合は、「y」を入力します。
RIS サーバーのサブネットアドレスの指定を求めるメッセージが表示されます。

25 Windows RIS サーバーを設定します。

- a. RIS サーバーの SSH アクセスユーザー名を指定します。

RIS サーバーの SSH アカウントユーザー名を入力します。次に例を示します。n1smssh
指定するユーザーアカウントは、RIS サーバー上にすでに存在している必要があります。

RIS サーバーの SSH アクセスユーザーパスワードの指定を求めるメッセージが表示されます。

- b. RIS サーバーの SSH アクセスユーザーパスワードを指定します。

RIS サーバーの SSH ユーザーアカウントのパスワードを入力します。SSH アクセスパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されたら、パスワードを再入力します。

RIS の共有パスの指定を求めるメッセージが表示されます。

- c. RIS の共有パスを指定します。

RIS の共有パスは、RIS サーバーで、RIS ソフトウェアがインストールされているドライブとディレクトリ名です。次に例を示します。D:\RemoteInstall

RIS のプロビジョニングファイルの場所の指定を求めるメッセージが表示されます。

- d. RIS のプロビジョニングファイルの場所を指定します。

プロビジョニングファイルの場所は、設定プロセスによって RIS サーバーに作成されるディレクトリのドライブとディレクトリパスです。N1 System Manager によってこのディレクトリに RIS サーバー用のスクリプトがコピーされます。次に例を示します。

C:\N1SM

RIS のネットマスクの指定を求めるメッセージが表示されます。

- e. RIS のネットマスクを指定します。

Return キーまたは Enter キーを押してデフォルトのネットマスク値 255.255.255.0 を使用するか、別のネットマスク値を入力します。

RIS の言語の指定を求めるメッセージが表示されます。

- f. RIS の言語を指定します。

Return キーまたは Enter キーを押してデフォルトの言語値である英語を使用するか、別の言語の名前を入力します。

有効な言語の一覧を表示するには、RIS サーバーで Microsoft Windows のコントロールパネルから「地域と言語のオプション」を選択し、「地域と言語のオプション」パネルを表示します。「地域オプション」タブをクリックし、表示される言語の右側の矢印をクリックします。言語の一覧が表示されます。

RIS のホスト名の指定を求めるメッセージが表示されます。

g. RIS のホスト名を指定します。

RIS サーバーのホスト名を入力します。次に例を示します。 *rissserver*

RIS のホストの IP アドレスの指定を求めるメッセージが表示されます。

h. RIS のホストの IP アドレスを指定します。

RIS のホストの IP アドレスを入力します。

RIS の Active Directory のユーザー名の指定を求めるメッセージが表示されます。

i. RIS の Active Directory のユーザー名を指定します。

Active Directory のユーザーアカウントの名前を入力します (例: *n1smadmin*)。Active Directory のユーザーアカウントが RIS サーバーになかった場合、設定プロセスによってユーザーアカウントが作成されます。

Active Directory のユーザーアカウントのパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

j. RIS の Active Directory のパスワードを指定します。

RIS サーバーの Active Directory のユーザーアカウントのパスワードを入力します。

Active Directory のパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されたら、パスワードを再入力します。

RIS の Active Directory のドメインの指定を求めるメッセージが表示されます。

k. RIS の Active Directory のドメイン名を指定します。

RIS サーバーで Active Directory を設定するときに指定したドメイン名を入力します。

次に例を示します。 *servername.company.com*

指定した RIS 設定が表示され、この設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

l. 指定した RIS 設定を使用するかどうかを選択します。

- 表示されている設定を変更する場合は、「**n**」を入力します。RIS の設定プロセスが再び開始され、Windows RIS サーバーを追加するか、削除するか、変更するかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 25](#) の最初に戻ります。
- 表示されている設定を適用する場合は「**y**」を入力します。

設定が適用され、OS 検出を有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

26 OS 検出を有効にするかどうかを選択します。

OS 検出を有効にすると、管理可能なサーバーで実行されているオペレーティングシステムに基づいて管理可能なサーバーを検出できます。

- OS 検出を有効にしない場合は、「n」を入力します。
- OS 検出を有効にする場合は、「y」を入力します。

プランとジョブの実行サーバーのデフォルトのパスワードを変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

27 プランとジョブの実行サーバーのパスワードを変更するかどうかを選択します。

実行サーバーのパスワードを変更すると、セキュリティが強化され、サービスプロビジョニングのパスワードが変更されます。

- パスワードを変更しない場合は、「n」を入力します。
- パスワードを変更する場合は、「y」を入力します。

新しいパスワードを入力するか、表示されるデフォルトのパスワードを使用するかを問い合わせるメッセージが表示されます。新しいパスワードを入力するか、デフォルトを使用します。

指定した設定がすべて表示され、この設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

28 設定を確認します。

- 設定を適用するには、「y」を入力します。

設定が適用されます。

- n1smconfig をはじめて実行している場合は、Enter キーを押して N1 System Manager を起動するように求めるメッセージが表示されます。
- n1smconfig を以前に実行したことがある場合は、N1 System Manager を再起動するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。「y」を入力して N1 System Manager を再起動するか、「n」を入力してコマンドプロンプトに戻ります。

- 設定が正しくない場合は、「n」を入力します。

N1 System Manager が正常に機能するには、再設定して設定を適用する必要がある、という通知が示されます。設定プロセスが終了し、システムプロンプトが表示されます。N1 System Manager を設定するには、n1smconfig コマンドを再び実行します。

次の手順 第2章の説明に従って、N1 System Manager システムの本稼働の準備を行います。

SSHのホストキーが不明だったか、変更されていた場合のポリシーの設定

ここでは、ホストキーが変更されていたか、不明だった場合のSSHポリシーを変更する手順を示します。

▼ SSHポリシーを変更する

1 N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。

2 N1 System Manager を停止します。

- Solaris の管理サーバーでは、「**svcadm disable n1sm**」と入力します。
- Linux の管理サーバーでは、「**/etc/init.d/n1sm init stop**」と入力します。

N1 System Manager のプロセスがすべて停止するまで待ちます。

3 管理 IP アドレスのポリシーを次のように変更します。

- 不明なホストキー:
 - 不明なホストキーを許容するには、「**n1smconfig -ssh_unk_man_ip=y**」と入力します。
 - 不明なホストキーを拒否するには、「**n1smconfig -ssh_unk_man_ip=n**」と入力します。
- 変更されたホストキー:
 - 変更されたホストキーを許容するには、「**n1smconfig -ssh_cha_man_ip=y**」と入力します。
 - 変更されたホストキーを拒否するには、「**n1smconfig -ssh_cha_man_ip=n**」と入力します。

4 プラットフォーム IP アドレスのポリシーを次のように変更します。

- 不明なホストキー:
 - 不明なホストキーを許容するには、「**n1smconfig -ssh_unk_pla_ip=y**」と入力します。
 - 不明なホストキーを拒否するには、「**n1smconfig -ssh_unk_pla_ip=n**」と入力します。
- 変更されたホストキー:
 - 変更されたホストキーを許容するには、「**n1smconfig -ssh_cha_pla_ip=y**」と入力します。
 - 変更されたホストキーを拒否するには、「**n1smconfig -ssh_cha_pla_ip=n**」と入力します。

5 N1 System Manager を起動します。

- Solaris の管理サーバーでは、「`svcadm enable n1sm`」と入力します。
- Linux の管理サーバーでは、「`/etc/init.d/n1sminit start`」と入力します。

本稼働の準備

この章では、N1 System Manager の調整のガイドラインと手順を示します。

次の内容について説明します。

- 33 ページの「セキュリティーの考慮事項」
- 34 ページの「パフォーマンスのガイドライン」
- 34 ページの「N1 System Manager のパフォーマンスチューニング」
- 36 ページの「管理サーバーのリホスティング」

セキュリティーの考慮事項

N1 System Manager を使用する際に、注意しなければならないセキュリティー上の留意点を次に示します。

- N1 System Manager のブラウザインタフェースの起動に使用される Java™ Web Console では、自己署名付き証明書が使用されます。これらの証明書は、クライアントとユーザーによって、適切な信頼レベルをもって取り扱われるべきです。
- ブラウザインタフェースでシリアルコンソール機能用に使用される端末エミュレータ アプレットは、証明書に基づくアプレットの認証を提供しません。また、このアプレットを使用するには、管理サーバーで SSHv1 を有効にする必要があります。証明書に基づく認証を使用する、または SSHv1 を有効にしない場合は、n1sh シェルから、connect コマンドを実行してシリアルコンソールを使用してください。
- N1 System Manager ソフトウェアでは、管理サーバーから、管理可能なサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースへの接続に使用される SSH フィンガープリントが自動的に確認されます。この自動化によって、管理対象サーバーが中間者攻撃を受けやすくなります。
- Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーの Web Console (Sun ILOM Web GUI) 自動ログイン機能によって、ログインページの Web ページソースを表示できるユーザーから、サーバーのサービスプロセッサの資格情報が見える状態になります。このセ

セキュリティ上の問題を回避するには、`n1smconfig`ユーティリティを実行することによって自動ログイン機能を使用不可にします。詳細は、17ページの「[N1 System Manager の設定](#)」を参照してください。

パフォーマンスのガイドライン

N1 System Manager 環境のパフォーマンスを最適化するには、次のガイドラインおよび推奨事項に従ってください。

- 検出を実行する前に、34ページの「[N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる](#)」の説明に従って、N1 System Manager の調整を行います。
- グループあたりの管理対象サーバー数を増やし、大量の個別サーバーではなく、グループに対して操作を実行します。グループに対して操作を実行すると、管理する必要のあるグループの数と、特定の作業を行うために実行する必要のあるジョブの数を最小限に抑えることができます。

N1 System Manager のパフォーマンスチューニング

管理する管理対象サーバー数に基づいて、N1 System Manager のパフォーマンスが最適になるようにチューニングを行います。次の手順は、プロビジョニング可能なサーバーの検出を行う前に行う必要があります。

▼ N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる

- 1 管理サーバーに `root` でログインします。
- 2 Linux のみ: NFS ファイルを更新します。
 - a. `/etc/sysconfig/nfs` ファイルを開いて次の行を追加します。

```
RPCNFSDCOUNT=32
```
 - b. ファイルを保存し、閉じます。
 - c. 「`/etc/init.d/nfs restart`」と入力して NFS を再起動します。
- 3 `package.cache.xml` ファイルを更新します。

```
/opt/sun/n1gc/lib/package.cache.xml
```

 ファイルを開き、`attribute name="FirmwareInfos"` を含む行を探します。この行を次のように変更します。

```
<attribute name="FirmwareInfos" refresh-interval="-1" delay="none" persistent="true"/>
```

このように指示すると、N1 System Manager の再起動後、はじめて実行する `show server` コマンドが完了するまでの時間が短縮されます。

4 N1 System Manager を停止します。

- Solaris の管理サーバーでは、「`svcadm disable n1sm`」と入力します。
- Linux の管理サーバーでは、「`/etc/init.d/n1sminit stop`」と入力します。

N1 System Manager のプロセスがすべて停止するまで待ちます。

5 N1 System Manager を起動します。

- Solaris の管理サーバーでは、「`svcadm enable n1sm`」と入力します。
- Linux の管理サーバーでは、「`/etc/init.d/n1sminit start`」と入力します。

次の手順 N1 System Manager の旧バージョンを version 1.3 にアップデートした場合は、N1 System Manager 1.3 を使用できるようになります。

N1 System Manager 1.3 をはじめてインストールした場合は、次の作業を行います。

- N1 System Manager にログインします。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「コマンド行を使用した N1 System Manager へのアクセス」を参照してください。
- N1 System Manager のユーザーを定義します。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「ユーザーの管理」を参照してください。
- N1 System Manager のロールを定義します。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「ロールの管理」を参照してください。
- 検出を実行して管理可能なサーバーを検出し、識別します。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「SP ベースの検出」を参照してください。
- 管理対象サーバー用のオペレーティングシステムのディストリビューションを作成します。『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の「UNIX OS ディストリビューションの管理」を参照してください。
- 管理対象サーバー用のオペレーティングシステムプロファイルを作成します。『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の「OS プロファイルの管理」を参照してください。
- オペレーティングシステムのディストリビューションを管理対象サーバーにインストールします。『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の「管理対象サーバーへの UNIX OS のインストール」を参照してください。
- N1 System Manager のインストールのバックアップを作成します。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 3 章「バックアップと復元」を参照してください。

問題の対処方法については、『Sun N1 System Manager 1.3 Troubleshooting Guide』を参照してください。

管理サーバーのリホスティング

リホスティングは、インストールと設定が完了した N1 System Manager の管理サーバーを新しいネットワークに再配置するプロセスです。新しいネットワークは完全に異なる構成でもかまいません。この場合は、管理サーバーのネットワーク設定を変更する必要があります。

管理サーバーのリホスティングは、次の場合に必要です。

- N1 System Manager が、テスト環境内の管理サーバーでインストールおよび設定され、管理サーバーを本稼働環境に移動する準備ができた場合。
- N1 System Manager が、本稼働環境内の管理サーバーでインストールおよび設定され、これから新しいネットワークに再配置する場合。

N1 System Manager の管理サーバーのリホスティングは主に次の3つの作業から構成されます。

- サーバー再起動時の N1 System Manager の起動を無効にします。
- オペレーティングシステムのファイルの設定を変更します。
- 管理サーバーの設定を変更します。

注 - N1 System Manager 1.3 では、管理対象サーバーのリホスティングはサポートされていません。

サーバー再起動時の N1 System Manager の起動の無効化



注意 - 管理サーバーのリホスティングを行う前に、サーバー再起動時に N1 System Manager を起動する機能を無効にする必要があります。

管理サーバーのホスト名または IP アドレスを変更してからサーバーを再起動したときに、N1 System Manager が、サーバー再起動時に起動するように設定されていた場合、N1 System Manager が無効なホスト名または IP アドレスで起動する可能性があります。

1. 「**ps -ef | grep [Nn]1**」と入力して、N1 System Manager の実行中のプロセスを表示します。
2. 「**kill -9 PID**」と入力します。ここで *PID* は N1 System Manager のプロセスのプロセス ID です。

管理サーバーのリホスティングのための変更を行う前に、次の作業を実行してください。

▼ サーバー再起動時の N1 System Manager の起動を無効にする

- 1 管理サーバーに **root** でログインします。
- 2 **N1 System Manager** を停止します。
 - Solaris の管理サーバーでは、「**svcadm disable -s n1sm**」と入力します。
 - Linux の管理サーバーでは、「**/etc/init.d/n1sm init stop**」と入力します。プロセスがすべて停止するまで待ちます。

プロセスがすべて停止したら、「**ps -ef | grep [Nn]1**」と入力して、N1 System Manager の実行中のプロセスを表示します。

N1 System Manager の残りのプロセスを停止するには、「**kill -9 PID**」と入力します。ここで **PID** は N1 System Manager のプロセスのプロセス ID です。
- 3 「**n1smconfig**」と入力して設定プロセスを実行します。
設定プロセスの各手順で、表示される値を受け入れます。サーバー起動時の N1SM の起動を有効にするかどうかの値以外は何も変更しません。
- 4 Enable N1SM to start at each boot? (n/[y]) と表示されたら、「**n**」を入力します。
設定プロセスの残りの各手順で、表示される値を受け入れます。N1SM を再起動するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されたら、「**n**」を入力します。
- 5 手順 2 の説明に従って **N1 System Manager** のプロセスがすべて停止していることを確認します。

次の手順 次の節に示すように、管理サーバーのシステムファイルの設定を変更します。

オペレーティングシステムのファイルの設定の変更

ここでは、オペレーティングシステムのファイルの設定を変更する手順を示します。この作業は、N1 System Manager の設定を変更する前に行う必要があります。

▼ Solaris オペレーティングシステムのファイルの設定をリホスティングに合わせて変更する

始める前に 36 ページの「サーバー再起動時の N1 System Manager の起動の無効化」の説明に従って、サーバー再起動時に N1 System Manager を起動する機能が無効になっていることを確認します。

- 1 管理サーバーに **root** でログインします。

- 2 /etc/hosts ファイルを編集し、表示されるホスト名と IP アドレスを新しいホスト名と IP アドレスに変更します。
- 3 /etc/nodename ファイルを編集し、表示されるホスト名を新しいホスト名に変更します。
- 4 /etc/hostname.*port type* ファイルを編集します。ここで *port type* は **Ethernet** ポートの種類の名前です。
ポートの種類の名前は、ハードウェアによって異なり、ファイル名はたとえば、
/etc/hostname.bge0 や /etc/hostname.hme0 などになります。
表示されるホスト名を新しいホスト名に変更します。
- 5 管理サーバーの電源を切ります。
- 6 管理サーバーを新しいネットワークに接続します。
- 7 管理サーバーを再起動します。
管理サーバーの再起動が完了したら、N1 System Manager のプロセスが実行されていないことを確認します。

次の手順 39 ページの「[管理サーバーの設定の変更](#)」の説明に従って、N1 System Manager のシステムファイルの設定を変更します。

▼ Linux オペレーティングシステムのファイルの設定をリホスティングに合わせて変更する

始める前に 36 ページの「[サーバー再起動時の N1 System Manager の起動の無効化](#)」の説明に従って、サーバー再起動時に N1 System Manager を起動する機能が無効になっていることを確認します。

- 1 管理サーバーに **root** でログインします。
- 2 /etc/hosts ファイルを編集し、表示されるホスト名と IP アドレスを新しいホスト名と IP アドレスに変更します。
- 3 /etc/sysconfig/network ファイルを編集し、表示されるホスト名を新しいホスト名に変更します。
- 4 各 /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-*ethx* ファイルを編集します。ここで *ethx* は **Ethernet** ポートの種類の名前です。
ファイル名はたとえば、/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0 や /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth1 などになります。
表示される IP アドレスを新しい IP アドレスに変更します。管理サーバーで、管理ネットワークとプロビジョニングネットワークに別個の Ethernet ポートを使用している場合は、各ポートに正しい IP アドレスを指定するようにします。

- 5 管理サーバーの電源を切ります。
- 6 管理サーバーを新しいネットワークに接続します。
- 7 管理サーバーを再起動します。
管理サーバーの再起動が完了したら、N1 System Manager のプロセスが実行されていないことを確認します。

次の手順 次の節に示すように、N1 System Manager のシステムファイルの設定を変更します。

管理サーバーの設定の変更

この節では、管理サーバーで N1 System Manager の設定を変更する手順を示します。

▼ 管理サーバーの設定をリホスティングに合わせて変更する

始める前に 37 ページの「オペレーティングシステムのファイルの設定の変更」の説明に従って、オペレーティングシステムのファイルの設定がリホスティングに合わせて変更されている必要があります。

- 1 管理サーバーに **root** でログインします。
- 2 **N1 System Manager** が実行されていないことを確認します。
- 3 「**n1smconfig**」と入力して設定の変更プロセスを開始します。
- 4 **N1 System Manager** の管理サーバーのリホスティング先のネットワークの要件に従って、それぞれの設定プロンプトで要求される情報を入力します。
設定については、17 ページの「**N1 System Manager の設定**」を参照してください。

Sun N1 System Manager ソフトウェアのアップグレード

この章では、N1 System Manager 1.2 の管理サーバーを N1 System Manager 1.3 にアップグレードする手順を示します。Sun N1 System Manager version 1.1 から version 1.3 にアップグレードする場合は、この章の説明に従って、先に version 1.1 の N1 System Manager を version 1.2 にアップグレードする必要があります。

この章では、次の内容について説明します。

- 41 ページの「Sun N1 System Manager 1.3 へのアップグレード」
- 44 ページの「N1 System Manager version 1.2 の n1gc アカウントの削除」
- 44 ページの「Grid Engine で使用するための管理対象サーバーのアップデート」

注-

- セキュリティに関する警告: N1 System Manager によって Solrais オペレーティングシステムが配備された管理対象サーバーには、n1gc というユーザーアカウントがあります。n1gc ユーザーアカウントは不要であるため、44 ページの「N1 System Manager version 1.2 の n1gc アカウントの削除」の説明に従って削除するようにしてください。
 - Grid Engine で管理対象サーバーを使用する予定で、管理対象サーバーの OS 監視機能または基本管理機能が有効になっている場合は、44 ページの「Grid Engine で使用するための管理対象サーバーのアップデート」の説明に従って、Grid Engine を配備できるようにサーバーをアップデートします。
-

Sun N1 System Manager 1.3 へのアップグレード

ここでは、管理サーバーの N1 System Manager 1.2 を N1 System Manager 1.3 にアップグレードする手順を示します。

▼ Sun N1 System Manager ソフトウェアをアップグレードする

始める前に N1 System Manager のインストールのバックアップを作成します。『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第3章「バックアップと復元」を参照してください。

- 1 N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。
- 2 N1 System Manager のプロセスをすべて停止します。
 - Solaris の管理サーバーでは、「**svcadm disable n1sm**」と入力します。
 - Linux の管理サーバーでは、「**/etc/init.d/n1sminit stop**」と入力します。

N1 System Manager のプロセスがすべて停止するまで待ちます。

- 3 N1 System Manager のソースがあるディレクトリに移動します。

N1 System Manager の DVD からインストールする場合は、次のディレクトリに移動します。

- Solaris SPARC ベースの管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_sparc/Product/installer
```

- Solaris x86 ベースの管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_x86/Product/installer
```

- Linux x86 ベースの管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Linux_x86/Product/installer
```

N1 System Manager のインストール ISO イメージからインストールする場合は、パス名の /cdrom を、マウントポイントのディレクトリ名に置き換えます。

- 4 「**./install -u**」と入力してアップグレードインストールプロセスを起動します。

ソフトウェア評価規約が表示されます。
- 5 規約に同意してインストールを継続するかどうかを選択します。

規約をよく読みます。インストールを継続するには「**y**」を、インストールを中止するには「**n**」を入力します。

アップグレードを継続すると、アップグレードスクリプトによって必要な Perl モジュールが確認されます。このプロセスが完了すると、アップグレードプロセスによって、管理サーバー上のコンポーネントのバージョンが、N1 System Manager 1.3 のインストールメディアのアプリケーションのバージョンと照合されます。そのあと、N1SM インストーラのアップグレードメニューが表示され、最新のコンポーネントとアップグレードできるコンポーネントが一覧表示されます。

次に示すように、N1SM アップグレードのメニューと、アップグレードされるコンポーネントの一覧の表示内容は、管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

- Solaris 10 の管理サーバー

N1SM Upgrade (version 1.2 to 1.3 on SunOS)

- | | |
|---|---------------------|
| 1. Install IPMI tool. | [Up to Date] |
| 2. Install JDK 1.5. | [Up To Date] |
| 3. Install service provisioning components. | [Upgrade Available] |
| 4. Install OS provisioning components. | [Upgrade Available] |
| 5. Install user interface components. | [Upgrade Available] |
| 6. Install service container components. | [Up to Date] |
| 7. Install N1 System Manager. | [Upgrade Available] |

Non-interactive install in progress

Executing current step: Install OS packages...

- Linux の管理サーバー

N1SM Upgrade (version 1.2 to 1.3 on Linux)

- | | |
|---|---------------------|
| 1. Install IPMI tool. | [Up To Date] |
| 2. Install JDK 1.5. | [Up To Date] |
| 3. Install Python. | [Up To Date] |
| 4. Install service provisioning components. | [Upgrade Available] |
| 5. Install OS provisioning components. | [Upgrade Available] |
| 6. Install user interface components. | [Upgrade Available] |
| 7. Install service container components. | [Up To Date] |
| 8. Install N1 System Manager. | [Upgrade Available] |

Non-interactive upgrade in progress.

Executing current step: Install IPMI tool...

インストールプロセスによって各処理が順番に実行されます。処理が完了すると、処理の状態が、[Up to Date] に変わります。

手順に失敗するとそのことが通知され、処理の状態は [Upgrade Available] のままか、[Partially Run] に変わります。インストールプロセスを終了し、ログファイル /var/tmp/installer.log.latest で問題の原因を調べてください。問題が解決したら、アップグレードプロセスを再び実行します。

アップグレードプロセスが完了すると、すべての実行中の N1 System Manager プロセスが停止し、再起動します。そのあと、N1 System Manager のアップグレードプロセスが完了したことを通知するメッセージが表示されます。

インストールプロセスが終了します。n1smconfig ユーティリティの実行を求めるメッセージが表示されます。N1 System Manager 1.3 には、N1 System Manager を再起動する前に設定する必要がある新機能がいくつかあります。17 ページの「N1 System Manager の設定」の説明に従って n1smconfig を実行します。

次の手順 次の節の説明に従って N1 System Manager version 1.2 の n1gc アカウントを削除します。

N1 System Manager version 1.2 の n1gc アカウントの削除

N1 System Manager によって Solrais オペレーティングシステムが配備された管理対象サーバーには、n1gc というユーザーアカウントがあります。n1gc ユーザーアカウントは不要であるため、削除するようにします。n1gc ユーザーアカウントを削除しても N1 System Manager 1.3 の機能に影響はありません。

n1gc ユーザーアカウントを削除する方法は、管理対象サーバーの基本管理が有効になっているかどうかによって異なります。

- 基本管理が有効になっている場合は、n1gc ユーザーアカウントを次のように N1 System Manager のコマンド行から削除します。
 - 単一の管理対象サーバーの場合は、次のように入力します。


```
start server server command "/usr/sbin/userdel n1gc"
```
 - 管理対象サーバーのグループの場合は、次のように入力します。


```
start group groupip command "/usr/sbin/userdel n1gc"
```

基本管理機能については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「基本管理機能と OS 監視機能の追加およびアップグレード」を参照してください。

- 基本管理が有効になっていない場合は、オペレーティングシステムのマニュアルでユーザーアカウントの削除手順を確認してください。

Grid Engine で使用するための管理対象サーバーのアップデート

OS 監視機能または基本管理機能が有効になっている管理対象サーバーを Grid Engine で使用するには、事前にこれらの機能をアップデートしてください。

- 管理対象サーバーの OS 監視機能のアップデート:
 - 単一の管理対象サーバーの場合は、次のように入力します。


```
add server server feature osmonitor upgrade=true
```
 - 管理対象サーバーのグループの場合は、次のように入力します。


```
add group group feature osmonitor upgrade=true
```

- 管理対象サーバーの基本管理機能のアップデート:
 - 単一の管理対象サーバーの場合は、次のように入力します。
`add server server feature basemanagement upgrade=true`
 - 管理対象サーバーのグループの場合は、次のように入力します。
`add group group feature basemanagement upgrade=true`

基本管理機能と OS 監視機能については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「基本管理機能と OS 監視機能の追加およびアップグレード」を参照してください。

◆ ◆ ◆ 第 4 章

Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール

この章では、N1 System Manager ソフトウェアを管理サーバーからアンインストールする手順を示します。

N1 System Manager をアンインストールする前に、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 3 章「バックアップと復元」の説明に従って N1 System Manager のバックアップを作成します。

Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール

ここでは、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする手順を示します。

▼ N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする

- 1 N1 System Manager 管理サーバーに `root` でログインします。
- 2 N1 System Manager のプロセスをすべて停止します。
オペレーティングシステム固有のコマンドについては、表 1-1 を参照してください。
「N1 services stopped」というメッセージを確認してから続行します。
- 3 「`/n1gc-setup/installer/install -e`」と入力して、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールします。
次のいずれかのメニューが表示されます。管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

NISM Installer (SunOS)

1. Uninstall OS packages.

[Not Uninstalled]

- | | |
|---|-------------------|
| 2. Uninstall Expect. | [Not Uninstalled] |
| 3. Uninstall IPMI tool. | [Not Uninstalled] |
| 4. Uninstall JDK 1.5. | [Not Uninstalled] |
| 5. Uninstall service provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 6. Uninstall OS provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 7. Uninstall user interface components. | [Not Uninstalled] |
| 8. Uninstall service container components. | [Not Uninstalled] |
| 9. Uninstall N1 System Manager. | [Not Uninstalled] |

Non-interactive uninstall in progress

Executing current step: Install OS packages...

N1SM Installer (Linux)

- | | |
|---|-------------------|
| 1. Uninstall empty directories. | [Not Uninstalled] |
| 2. Uninstall IPMI tool. | [Not Uninstalled] |
| 3. Uninstall JDK 1.5. | [Not Uninstalled] |
| 4. Uninstall Python. | [Not Uninstalled] |
| 5. Uninstall service provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 6. Uninstall OS provisioning components. | [Not Uninstalled] |
| 7. Uninstall user interface components. | [Not Uninstalled] |
| 8. Uninstall service container components. | [Not Uninstalled] |
| 9. Uninstall N1 System Manager. | [Not Uninstalled] |

Non-interactive uninstall in progress.

アンインストールプロセスによって N1 System Manager ソフトウェアとコンポーネントの削除が開始されます。アンインストールは逆の順番で行われます。アンインストールプロセスが完了すると、「N1SM is uninstalled」というメッセージが表示されます。

- 4 管理サーバーを再起動してから、ほかの作業を行います。

Sun N1 System Manager のプロトコル、ポート、および機能のリファレンス

この付録の表には、N1 System Manager の管理サーバーと管理対象サーバーのプロトコル、ポート、機能、およびそれぞれの設定オプションを示します。

表A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス

DHCP	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	67、68 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	ルーターを使用したネットワークに DHCP リレーが必要です。
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	ネットブート時に管理対象サーバーからの DHCP 要求に応答します。
有効化または無効化	DHCP サービスは、OS 配備のネットブート段階で N1 System Manager によって有効にされ、その後無効にされます。
認証	なし
データ暗号化	なし

FTP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 21 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	ALOM システムのファームウェア管理
有効化または無効化	手動指定によって間接的に可能

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

認証	N1 System Manager サーバーでランダムに生成されたユーザーとパスワードのアカウント。ユーザーによる設定は不可
データ暗号化	不可
HTTP	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	80 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server のディスクフル OS 配備時に必要です。
有効化または無効化	不可
認証	ユーザー ID とパスワード
データ暗号化	不可
HTTP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 80 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	N1 System Manager のブラウザインタフェースからの Sun Fire T1000 および T2000 の管理対象サーバーの Web Console の起動。
有効化または無効化	可。n1smconfig を使用して有効または無効にします。すると、N1 System Manager が停止され、再起動されます。
認証	ユーザー ID とパスワード
データ暗号化	不可。
HTTPS	
ネットワークアクセス	企業ネットワーク
デフォルトのポート	6789 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	ポート 6789 は N1 System Manager のブラウザインタフェースによって登録されます。上書きは推奨されません。

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ポートに対応する機能	N1 System Manager のブラウザインタフェースにコンテンツを配信しません。
有効化または無効化	ポートは N1 System Manager のブラウザインタフェースが排他的に所有している必要があり、N1 System Manager の実行中は無効にできません。
認証	N1 System Manager のブラウザインタフェースコンポーネントによる PAM ベースの認証。
データ暗号化	可 (証明書を使用)
ICMP	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	5813 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	管理対象サーバーで実行中の OS のネットワーク監視。
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	不可
ICMP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	5813 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	サービスプロセッサインタフェースのネットワーク監視
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	不可
IPMI	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 623 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	IPMI ベースのサービスプロセッサを使用した検出
有効化または無効化	手動指定によって間接的に可能
認証	ユーザー/パスワード
データ暗号化	不可
JDBC	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	5434 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	該当なし
ポートの設定	可。 /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System_5.1/server/postgres/data/postgresql.conf ファイルを変更
ポートに対応する機能	サービスプロビジョニングの Postgres データベースサーバー
有効化または無効化	不可
認証	ユーザー/パスワード
データ暗号化	不可
JDBC	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	5434 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	該当なし
ポートの設定	可。/etc/opt/sun/cacao/modules/servicescommonmodule.xml ファイルを変更
ポートに対応する機能	サービスプロビジョニングの Postgres データベースサーバークライアント
有効化または無効化	不可
認証	ユーザー ID とパスワード
データ暗号化	不可
JDBC	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	5433 (サーバー)

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ルーターとファイアウォールの構成	該当なし
ポートの設定	可。/var/opt/sun/scs/data/db/mgmt/postgresql.conf ファイルを変更
ポートに対応する機能	SCS Postgres データベースサーバー
有効化または無効化	不可
認証	ユーザー/パスワード
データ暗号化	不可
JDBC	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	5433 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	該当なし
ポートの設定	可。/etc/opt/sun/cacao/modules/servicescommonmodule.xml ファイルを変更
ポートに対応する機能	SCS Postgres データベースクライアント
有効化または無効化	不可
認証	ユーザー ID とパスワード
データ暗号化	なし
JMXMP	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	10162 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	すべての機能で使用されます。このポートは、共通エージェントコンテナ Mbean Server が開きます。
有効化または無効化	ポート 10162 は共通エージェントコンテナが排他的に所有している必要があります、N1 System Manager の実行中は無効にできません。
認証	UnknownClient 接続要求の PAM ベースの認証。
データ暗号化	可
JMXMP	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	10162 (クライアント)

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。cacao.properties を編集します。
ポートに対応する機能	N1 System Manager のブラウザインタフェースコンポーネントによって、JMX UnknownClient 接続を使用した、共通エージェントコンテナの Mbean Server への接続に使用されます。
有効化または無効化	不可
認証	PAM
データ暗号化	可
JMXMP	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	10163 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。cacao.properties を編集します。
ポートに対応する機能	N1 System Manager の n1sh コマンド行インタフェースによって、JMX WellknownClient 接続を使用した、共通エージェントコンテナの CommandStream アダプタへの接続に使用されます。
有効化または無効化	不可
認証	可。公開鍵に基づきます。
データ暗号化	可
JMXMP	
ネットワークアクセス	ローカルホスト
デフォルトのポート	10163 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可。
ポートの設定	可。cacao.properties を変更します。
ポートに対応する機能	N1 System Manager の n1sh コマンド行インタフェースによって、共通エージェントコンテナの MbeanServer 内の CSA への WellknownClient 接続を確立するために使用されます。
有効化または無効化	不可
認証	鍵に基づく認証
データ暗号化	可
NFS	

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	TCP/UDP: 2049 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	N1 System Manager によって、Solaris のみのディスクフル OS 配備時のファイルシステムのエクスポートに使用されます。
有効化または無効化	OS 配備が必要な機能である場合は、常に実行されている必要があります。NFS は N1 System Manager によって自動的に有効または無効にされません。
認証	なし
データ暗号化	不可
SMTP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 25 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	ALOM の管理対象サーバーのハードウェア監視しきい値違反の電子メール警告ベースの検出
有効化または無効化	可。N1 System Manager を使用して <i>monitored=false</i> と設定します。ただし、OS 監視から独立していません。
認証	インストール前に手動で設定された電子メールアカウントのユーザーとパスワード
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	すべて
デフォルトのポート	UDP: 8089 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。構成ファイルのエントリを root ユーザーとして編集します。有効にするには、N1 System Manager を再起動する必要があります。
ポートに対応する機能	外部 SNMP マネージャーからの管理情報ベース (MIB) の OID の SNMP 読み取り要求

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

有効化または無効化	N1 System Manager の実行中は SNMP エージェントは有効です。SNMP エージェントは、N1 System Manager の起動時または N1 System Manager の実行中に無効にできません。
認証	SNMP V1 コミュニティ文字列。コミュニティ文字列は、テキスト形式で渡され、設定はできません。
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	すべて
デフォルトのポート	UDP: 162 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。CLI の <code>create notification</code> コマンドを実行します。
ポートに対応する機能	トラップ MIB の OIDS ごとに外部 SNMP トラップリスナーに SNMP トラップを送信します。
有効化または無効化	起動時または N1 System Manager の実行中に直接無効にすることはできません。N1 System Manager で SNMP 通知規則を作成する権限を許可しないことで間接的に無効にできます。
認証	なし
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	UDP: 162 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可。
ポートに対応する機能	Sun Fire V20z、V40z、X2100、X4100、および X4200 の管理対象サーバーのハードウェア監視しきい値違反のトラップベースの検出。
有効化または無効化	可。N1 System Manager を使用して <code>monitored=false</code> と設定します。ただし、OS 監視から独立していません。
認証	なし
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	UDP: 161 (クライアント)

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。/etc/opt/sun/n1gc/agent.properties を root で編集し、com.sun.hss.agent.snmpAgentPort= <i>port number</i> プロパティを挿入します。ここで <i>port number</i> は新しいポート番号です。各管理対象ノードのエージェントのポートを手動で設定する必要があります。N1 System Manager の再起動が必要です。
ポートに対応する機能	OS の監視
有効化または無効化	可。osmonitor 機能を追加しないでください。
認証	N1 System Manager を使用して設定可能な SNMP V1 コミュニティ文字列
データ暗号化	不可
SNMP V1	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	UDP: 8162 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。構成ファイルを root ユーザーとして編集し、N1 System Manager を使用して各管理対象ノードのポートを設定します。N1 System Manager の再起動が必要です。
ポートに対応する機能	OS 監視しきい値違反のトラップベースの検出
有効化または無効化	可。N1 System Manager を使用して <i>monitored=false</i> と設定します。ただし、ハードウェア監視から独立していません。
認証	なし
データ暗号化	なし
SNMP V3	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	UDP: 161 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。/etc/opt/sun/n1gc/agent.properties を root で編集し、com.sun.hss.agent.snmpAgentPort= <i>port number</i> プロパティを挿入します。ここで <i>port number</i> は新しいポート番号です。各管理対象ノードのエージェントのポートを手動で設定する必要があります。N1 System Manager の再起動が必要です。
ポートに対応する機能	OS 監視しきい値の設定

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

有効化または無効化	可。osmonitor 機能を追加しないでください。
認証	SNMP のユーザーに基づくセキュリティーモデル (USM) のユーザー ID とパスワード。N1 System Manager を使用して設定できます。
データ暗号化	可
SSH	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 22 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	n1sh コマンド行インタフェースを起動する認証ユーザーのリモートログインのために必要です。
有効化または無効化	OS レベルで root ユーザーが無効および有効にできます。N1 System Manager の再起動は不要です。
認証	PAM
データ暗号化	可
SSH	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 22 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. OS の監視 2. パッケージ配備 3. 遠隔コマンド
有効化または無効化	可。基本管理機能を追加しないでください。
認証	ユーザーパスワードと鍵に基づきます。
データ暗号化	可
SSH	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 22 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検出 2. ファームウェア管理 3. ハードウェアの監視 4. AMD システムのサービスプロビジョニングのコマンド行インタフェースを使用した Sun Fire V20z および V40z システムのネットブート制御
有効化または無効化	手動指定によって間接的に可能
認証	検出中に指定されたユーザー ID とパスワード
データ暗号化	可
TELNET	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP:23 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検出 2. 電源管理 3. ハードウェアの監視 4. ファームウェア管理 5. ALOM システムのサービスプロセッサのコマンド行インタフェースを使用したネットブート制御
有効化または無効化	手動指定によって間接的に可能
認証	検出中に設定可能なユーザーとパスワード
データ暗号化	不可
TFTP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	UDP: ランダム (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	該当なし
ポートに対応する機能	Sun Fire V20z と V40z のファームウェア管理

表 A-1 管理サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

有効化または無効化	手動指定によって間接的に可能
認証	なし
データ暗号化	不可

表 A-2 管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス

DHCP

ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	67、68 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	ルーターを使用したネットワークで DHCP リレーが必要
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	ネットブート時の DHCP 要求のプロロードキャスト
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	なし

FTP

ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 21 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	ALOM システムのファームウェア管理
有効化または無効化	サービスプロセッサでアカウントを手動で削除することで間接的に可能
認証	N1 System Manager サーバーでランダムに生成されたユーザーとパスワードのアカウント。ユーザーによる設定は不可
データ暗号化	なし

HTTP

ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
------------	----------------

表 A-2 管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

デフォルトのポート	80 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server のディスクフル OS 配備時に必要です。
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	なし
ICMP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	5813 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	AMD と SPARC システムのサービスプロセッサインタフェースのネットワーク監視。
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	なし
IPMI	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 623 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検出 2. 電源管理 3. ハードウェアの監視 4. サービスプロセッサと BIOS ファームウェア管理 5. AMD システムの IPMI ベースのサービスプロセッサを使用したネットブート制御

表 A-2 管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

有効化または無効化	SP でアカウントを手動で削除することで間接的に可能
認証	なし
データ暗号化	なし
NFS	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	2049 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	Solaris および Linux のみのディスクフル OS 配備プロセス時にリモートファイルシステムをマウントします。
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 161 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。表 A-1 の SNMP V1 の項を参照してください。
ポートに対応する機能	OS の監視
有効化または無効化	可。表 A-1 の SNMP V1 の項を参照してください。
認証	SNMP V1 コミュニティ文字列。n1smconfig を使用して設定可能
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	UDP: 162 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可

表 A-2 管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ポートの設定	可。表 A-1 の SNMP V1 の項を参照してください。
ポートに対応する機能	ハードウェア監視しきい値違反のトラップベースの検出
有効化または無効化	可。表 A-1 の SNMP V1 の項を参照してください。
認証	なし
データ暗号化	なし
SNMP V1	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	UDP: 8162 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。表 A-1 の SNMP V1 の項を参照してください。
ポートに対応する機能	OS 監視しきい値違反のトラップベースの検出
有効化または無効化	可。表 A-1 の SNMP V1 の項を参照してください。
認証	なし
データ暗号化	なし
SNMP V3	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 161 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	可。表 A-1 の SNMP V3 の項を参照してください。
ポートに対応する機能	OS 監視しきい値の設定
有効化または無効化	可。表 A-1 の SNMP V3 の項を参照してください。
認証	SNMP USM のユーザー ID とパスワード。 n1smconfig を使用して設定できます。
データ暗号化	なし
SSH	

表 A-2 管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 22 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可
ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検出 2. ファームウェア管理 3. ハードウェアの監視 4. AMD システムのサービスプロセッサのコマンド行インタフェースを使用した V20z および V40z システムのネットブート制御
有効化または無効化	サービスプロセッサでアカウントを手動で削除することで間接的に可能
認証	サービスプロセッサで手動で設定されたユーザーアカウントとパスワード
データ暗号化	可
SSH	
ネットワークアクセス	プロビジョニングネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 22 (クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	既知のポート。上書きは推奨されません。
ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. OS の監視 2. パッケージ配備 3. 遠隔コマンド
有効化または無効化	可。カスタムインストールスクリプト
認証	ユーザーパスワードと鍵に基づきます。
データ暗号化	可
TELNET	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	TCP: 23 (サーバー)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	不可

表 A-2 管理対象サーバーのプロトコル、ポート、および機能のリファレンス (続き)

ポートに対応する機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検出 2. 電源管理 3. ハードウェアの監視 4. ファームウェア管理 5. ALOM システムのサービスプロセッサの コマンド行インターフェースを使用した ネットブート制御
有効化または無効化	サービスプロセッサでアカウントを手動で削除することで間接的に可能
認証	検出中に指定されたユーザー ID とパスワード
データ暗号化	なし
TFTP	
ネットワークアクセス	管理ネットワーク
デフォルトのポート	UDP: ランダム(クライアント)
ルーターとファイアウォールの構成	不可
ポートの設定	該当なし
ポートに対応する機能	Sun Fire V20z と V40z システムのファーム ウェア管理
有効化または無効化	不可
認証	なし
データ暗号化	なし

索引

A

ALOM 電子メール警告, 受け取るように N1 System Manager を設定, 25

D

DHCP, 設定, 19

G

Grid Engine, 管理対象サーバーの有効化, 44-45

I

ILOM の自動ログイン, 設定, 22

ISO インストールイメージ

ダウンロード, 12-13

マウント, 13

N

n1gc アカウント, アップグレード後の削除, 44

N1 System Manager

SSH ポリシーの変更, 31

アップグレード, 41-44

アンインストール, 47

インストール, 14-17

インストールの前提条件, 11-13

管理サーバーのリホスティング, 36-39

ISO インストールイメージ (続き)

起動と停止, 17-18

サーバー再起動時の起動の無効化, 36-37

制限モード, 18

設定, 18-30

パフォーマンスチューニング, 34-35

プロトコル、ポート、および機能のリファレンス, 49

N1 System Manager ソフトウェア

インストール ISO イメージのダウンロード, 12-13

インストール ISO イメージのマウント, 13

R

RIS サーバー, 設定, 27

S

SMTP, 設定, 20

SSHv1, 設定, 24

SSH ポリシー

設定, 23

変更, 31

Sun Download Manager, ダウンロード, 12

W

Windows, RIS サーバーの設定, 27

あ

アップグレード

- Grid Engine の配備の有効化, 44-45
 - n1gc アカウントの削除, 44
 - N1 System Manager ソフトウェア, 41-44
- アンインストール, N1 System Manager, 47

い

イベントログ

- 重要度, 21
- 設定, 21

インストール

- ISO イメージ, ダウンロード, 12-13
- ISO イメージ, マウント, 13
- N1 System Manager ソフトウェア, 14-17
- N1 System Manager ソフトウェアのアップグレード, 41-44
- N1 System Manager のインストール ISO イメージのダウンロード, 12-13
- 前提条件, 11-13
- 方法, 12

か

ガイドライン

- セキュリティ, 33
- パフォーマンス, 34

管理サーバー

- ALOM 電子メール警告を受け取るように設定, 25
- DHCP 設定, 19
- ILOM の自動ログインの設定, 22
- N1 System Manager ソフトウェアのアップグレード, 41-44
- N1 System Manager ソフトウェアのインストール, 14-17
- N1 System Manager ソフトウェアの設定, 18-30
- SMTP の設定, 20
- SSHv1 設定, 24
- SSH ポリシーの設定, 23
- Windows RIS サーバーの設定, 27
- イベントログの設定, 21
- サーバー再起動時の起動の無効化, 36-37
- ジョブのタイムアウトの設定, 22

アップグレード (続き)

- パフォーマンスチューニング, 34-35
- リホスティング, 36-39

き

- 起動と停止, N1 System Manager, 17-18

さ

- サーバー再起動時の起動, 無効化, 36-37
- 再配置
- オペレーティングシステムのファイルの設定の変更, 37-39
 - 管理サーバー, 36-39

し

- 重要度, イベントログ, 21
- ジョブのタイムアウト, 設定, 22

せ

- 制限モード, 18
 - セキュリティ, 考慮事項, 33
- 設定
- ALOM 警告用メールサーバー, 25
 - DHCP, 19
 - ILOM の自動ログイン, 22
 - N1 System Manager ソフトウェア, 18-30
 - SMTP, 20
 - SSHv1, 24
 - SSH ポリシー, 23
 - SSH ポリシーの変更, 31
 - Windows RIS サーバー, 27
 - イベントログ, 21
 - ジョブのタイムアウト, 22
 - セキュリティの考慮事項, 33
 - 前提条件, インストール, 11-13

た

ダウンロード

- Sun Download Manager, 12
- インストール ISO イメージ, 12-13

ち

チューニング, パフォーマンス, 34-35

は

- パフォーマンスチューニング, 34-35
- パフォーマンスのガイドライン, 34

ふ

プロトコル, ポート, および機能, リファレンス, 49

ほ

本稼働, 準備

- 管理サーバーのリホスティング, 36-39
- セキュリティーの考慮事項, 33
- パフォーマンスチューニング, 34-35
- パフォーマンスのガイドライン, 34

め

メールサーバー, ALOM 電子メール警告を受け取る
ように設定, 25

り

リホスティング

- オペレーティングシステムのファイルの設定の変更, 37-39
- 管理サーバー, 36-39
- サーバー再起動時の起動の無効化, 36-37

